

加藤 裕一（かとう・ゆういち）先生

株式会社レコチョク 代表執行役社長

【略歴】

昭和 35 年 1 月 6 日生

株式会社レコチョク 代表執行役社長

昭和 57 年 4 月 日本ビクター株式会社 入社

平成 14 年 4 月 ビクターエンタテインメント株式会社
経営企画室部長兼ネットビジネス推進室長

平成 19 年 6 月 同社 代表取締役社長

平成 22 年 6 月 株式会社レコチョク 代表執行役社長



《講義概要》

株式会社レコチョクの代表執行役社長として、エンタテインメント業界の最前線で活躍する加藤裕一氏が、音楽配信ビジネスの現状と課題について講義を行った。

講義ではまず、音楽市場の現状や着うたの誕生・成功要因について、詳細なデータを用いて分かりやすく説明。着うたの成功要因の一つでもある「健全な音楽創造サイクル」を維持することは、次の創造活動への原資を生み出すことに繋がり、音楽文化を衰退させないための重要なポイントであることを示した。

また、様々な側面から音楽配信の現状と取り巻く環境の変化について解説し、音楽を好む人々を音楽の「購入」へと繋げていくための対策が音楽業界全体に求められていることや、クラウド時代に対応した音楽視聴スタイルの確立が今後の音楽配信ビジネスにおける重要な課題であると言及した。

さらに、違法配信に対する様々な対策を紹介し、違法配信の問題を含めた今後の音楽配信ビジネスのあり方について、必要な知識と考え方を示す講義となった。

《受講生の感想》

●音楽配信に限らず、音楽にお金を使わない人にどうやって音楽に興味を持たせるか、ということは音楽業界全体の問題だと思った。音楽と関わりがない生活をしている人に、いかに色々なジャンルの音楽との出会いの場を提供できるかが大切だと考えた。

立命館大学・産業社会学部・2回生

●音楽配信だけでなく、現在の音楽ビジネスの市場が色々と変化しつつあることを今回話を聞いてより理解できたし、大変興味深かった。SNSの普及、スマートフォンの台頭などが大きな影響を与えていることや、ユーザーのニーズの変化に対応していくことでサービスが進化していくなど、これからの音楽サービスに期待が大きくなりました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●どのような変遷で「レコチョク」が今のような体制をとるようになったのかというお話が興味深かったです。今後スマートフォンという新たな市場への移り変わりにより、どのようなことを気にしなければならないのかを教えていただき、今後の学びに繋げていきたいと思いました。

立命館大学・産業社会学部・2回生

●いつでもどこでも聴ける音楽サービスだけではなく、個人の趣味や目的に応じて音楽を探せるサービスが今後生まれてくることなど、音楽配信のこれからについて非常に役立つ話を聞かせていただいた。違法ダウンロードは、減らすための技術や啓蒙対策が必要なのだと実感した。

立命館大学・産業社会学部・2回生

●便利なスマートフォンではあるけれど、音楽に対する機能が今までと異なってしまうことは、配信離れを生むものであり、さらなる音楽離れを生むことになると知ったけれど、スマートフォンの移行は止められないと思います。音楽離れを止めるには人々の意識だと思っていたけど、そういう環境を見直すことが必要であると思いました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●日本も韓国やフランスのようにもっと違法ダウンロードなどを強く取り締まるべきなのではないでしょうか。そのためにもネットを利用する人々に著作権のことや違法ダウンロードのことについてもっと知ってもらわなくてはいけないと感じました。

立命館大学・産業社会学部・2回生

